















令和3年度 学校評価表(安来高等学校)

自己評価・・・達成指数100以上⇒評価A(目標達成)、達成指数80以上100未満⇒評価B(ほぼ達成)、達成指数80未満⇒評価C(不十分)

評価計画				自己評価				学校関係者評価		次年度への改善策等								
教育目標	育てたい生徒像	育成を目指す資質・能力	目標達成のための方策の1つ	評価指標	目標値	評価値()内は1学期末	達成指数	評価	結果と課題		評価	委員からの意見等						
I きびしく(きびしく自らを律し)	よりよい(地域)社会の創り手として、自分自身を律し責任ある行動がとれる生徒	自分と向き合う力	 <p>当事者意識</p> <p>何事にも自分ごととして取り組むことができる。</p>	総合的な探究の時間や学校行事などにおいて生徒主体で考え取り組ませ達成感を抱かせる。	生徒が主体的に学校行事に参加したと感じているアンケート評価値(生徒No2、保護者No3)	3.5	3.6	102	A	感染症対策のため、様々な制約があったが、生徒会と協議しながら企画・運営し、全校生徒も協力してある程度の達成感が得られた。	A	コロナ禍のもと様々な制約がある中でできる範囲で努力されたと思う。	生徒が主体的に校内諸活動を企画しこれに参画させる。具体的には、生徒会の ○各種委員会で生徒から生徒へ呼び掛ける機会を持たせる。 ○情報委員による学校Instagramを開設し情報を発信する					
			 <p>自己研鑽力</p> <p>自分自身を高めるために、もっと学ぼうとする</p>	きめ細かな学習指導と適切な部活動によって、質の高い文武両立を実現する。	文武両立を目指した学習指導や部活動指導が行われているアンケート評価値(生徒8・保護者10)	3.5	3.2	90	B	部活動の活動時間に保護者や一年生から不安を感じる声がある。各部とも平日におけるオフ日の設定や試験前の活動中止など学業と両立させるための配慮をしている。		B		部活動に、1年生や保護者が理解し安心して部活動に取り組めるよう話し合いや検討されたし。特に終了時間の厳守により不安を無くして欲しい。	次年度も今年度引き続き以下のことを行う。 ○学校HPに掲載する各部の「年間指導計画」を案内し、活動の見通しを生徒、保護者にもってもらう。 ○時間の変更や延長がある場合には、各部顧問から予め生徒、保護者に連絡してもらう。			
			 <p>自己調整力</p> <p>自分の活動を振り返り、目標の達成に向けて行動を改善することができる</p>	キャリアパスポートの中でルーブリックによる自己評価を行わせ目標達成に向けて行動の改善を促す。	キャリアパスポートによる振り返りと改善に関するアンケート評価値(生徒10)	3.5	3.1	87	B	今年度からキャリアパスポートを導入し、学期末ごとに記入する機会を設けることで自分の取組を振り返り、改善点を検討するようになった。		B		自己の振り返りは大切なことで今後もキャリアパスポートの活用を続けて欲しい。	キャリアパスポートの効果的な活用に向け、学校評議員様からの意見を参考にしていきたい。			
			 <p>見通しを持つ力</p> <p>目標達成までのプランを立てることができる</p>	生徒の進路実現のため個々の課題と改善策について、検討会や模試分析によって教職員間で共有し、生徒と保護者に示す。	ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2	2.2(2.1)	110	A	特に、3年生は進路実現に向け意識が高まった。(1学期2.27→2学期2.47)		A		自己研鑽力は目標があることでその意識を高めることにつながるのではないかと。				
		II 高く(目標と信念を高く持ち)	新たな価値の創造のために高い理想を持ちその実現に向けて行動し学び(探究)し続けることのできる生徒	課題と向き合う力	 <p>学びに向かう力</p> <p>さまざまな学習に対して、その意義・目的を考え、主体的に取り組む</p>	生活時間調査を実施・集計・分析し、3点固定(起床時刻・学習開始時刻・就寝時刻)を呼びかける。	12月の調査で3点固定ができたことと答えた生徒の割合	80%	51	63	C	生活時間の3点固定を呼びかけたが、できたことと答えた生徒は半数しかいない。また、保護者評価、生徒の自己評価も低く、安来高校の抱える大きな課題である。	C	生活習慣は家庭環境によるところが大きく、自発的に取り組む姿勢を促す環境の整備が必要。	令和4年度に安来高校が一番に取り組まなければならない力である。 生徒の主体的な学習につながるカリキュラムマネジメント会議を開催し、共通理解をもって学校全体で組織的に取り組んでいく。			
					 <p>課題発見解決力</p> <p>課題を発見し、自ら解決しようとしている</p>	総合的な探究の時間での課題解決型学習を改善・充実させる。	保護者アンケート13	3.5	2.7	78	C	規則正しい生活を呼びかけるだけでなく、生徒が自主的に学習するようにしなければいけない。		C		すぐには、結果は出にくいと思うが、少しずつ継続的な指導が必要。 一人が勉強に向かうのは難しい。周囲と競い、一緒に取り組む場を与えてはどうか。		
					 <p>発信力</p> <p>自分の意見を適切に伝えることができる</p>	教科学習や総合的な探究の時間において、発表の機会を工夫し発信力と表現力の向上を図る。	ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2	2(1.8)	99	B			B		総合的な探究の時間の方向性ができつつあるように思われるので、継続し、より良いものへと磨き上げて欲しい。 課題は与えるのではなく、自ら見つけることが大切なこと。また、解決・達成する喜びを味わわせたい。		
				III 美しく(美しく豊かに生きる)	地域への愛着を基盤に多様な価値観を認め合う共生社会を生き抜くことができる生徒	他者と向き合う力	 <p>自己理解・肯定力</p> <p>自分を意味ある存在として肯定的に捉えることができる</p>	LHR、部活動、個人面談を通して自己理解を深めさせると同時に他者から認められる機会を設ける。	自己肯定感・自己有用感に関するアンケート評価値(生徒14)	3.5	3.2	90	B	目前に迫った進路決定に対し、改めて真剣に自分に向き合ったことで、自己理解が深まっていたと考える。	B	コロナ対応のため難しい状態と思うが、工夫ができないかを考えてもらいたい。	引き続きコロナ禍による感染防止のための対面での活動は制限される。一方、新1年生は一人1台のタブレットを持つことになる。したがって、これまでの発信方法だけに拘らず、この情報端末の利用を研究し効果的活用を目指したい。	
							 <p>他者理解・肯定力</p> <p>他者の考えを理解し、自分と違ったものでも尊重したり受け入れたりすることができる</p>	人権に関するLHRや学校行事・ホームルーム活動などを通して他者を思いやり大切にする姿勢と態度を身につけさせる。	発信力に関するアンケート評価(生徒12)	3.5	3.3	93	B	新学習指導要領を意識し、授業や学校行事など機会を捉え、自分の意見や考えを相手に伝えさせようと考えたが感染症対策のため制限された。		B		個人差が大きく評価が難しい。 自己表現・自己PRの力を養いたい。
							 <p>協働する力</p> <p>意見や主張の多様性を尊重しながら合意を形成し、他者と協働できる</p>	総合的な探究の時間だけでなく様々な学習において協働的な場面を積極的に設定する。	ルーブリック評価表による生徒の自己評価値	2	2(1.9)	99	B			B		自分のことが好きと思えるかも聞いて欲しい。
						他者と向き合う力	 <p>協働する力</p> <p>意見や主張の多様性を尊重しながら合意を形成し、他者と協働できる</p>	人権に関するアンケート評価値(生徒15)	3.5	3.2	93	B	道徳教育、人権・同和教育の一体的な指導計画をもとに、日常的に指導に取り組んだ。	B	3年生で大きく伸びているのは、成長の証。学習効果を評価して良いと思う。	低学年から、個人面談を通して、自分に向き合わせ「なりたいたい自分」について考えさせる。 生徒が自分の得意なことや成果をあげたことなどを振り返らせる機会を多く設けることで自己肯定感を高める。		
							 <p>協働する力</p> <p>意見や主張の多様性を尊重しながら合意を形成し、他者と協働できる</p>	協働性に関するアンケート評価値(生徒13)	3.5	3.4	97	B	蒼輝祭、文化祭などクラスで協働しながら取り組んだ成果と考える。大切な学校行事と再確認させられた。	B	学校生活全般で自然と身につくもの。大切にしたい。	自分を客観視し他者の考えや意見を聞くこととする態度を醸成するために、他者の立場を尊重する視点や行動の必要を扱うLHRを実施し、他者理解の姿勢を養う。		
他者と向き合う力	他者と向き合う力	 <p>協働する力</p> <p>意見や主張の多様性を尊重しながら合意を形成し、他者と協働できる</p>	協働性に関するアンケート評価値(生徒13)	3.5	3.4	97	B	蒼輝祭、文化祭などクラスで協働しながら取り組んだ成果と考える。大切な学校行事と再確認させられた。	B	人権教育は、継続して学ぶことが大切。今後も機会をつかって実施する。	新教育課程においても重要視されている力である。授業、学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動全ての教育活動において対話的活動を意識し協働的な学びを充実させる。							
		 <p>協働する力</p> <p>意見や主張の多様性を尊重しながら合意を形成し、他者と協働できる</p>	協働性に関するアンケート評価値(生徒13)	3.5	3.4	97	B	蒼輝祭、文化祭などクラスで協働しながら取り組んだ成果と考える。大切な学校行事と再確認させられた。	B	他者との協働は社会に出てからも大切なこと。								